

未来へつながる学びを支援する訪問 報告

英語 吉川市立南中学校

実施日 指導案検討 令和7年11月13日(木)
授業研究会 令和7年12月5日(金)
訪問者 指導主事 安達 一樹

指導案検討会

● 単元名

Unit 7 – Tina’s Speech (第3学年)

● 本時の目標

- 本文の内容を捉え、文脈中の中で If I could ~ の仮定法の文の意味・形・使い方を理解することができる。
《知識及び技能》

【授業者の思い・意図】

※自分の考えを磨きながら、英語で表現する喜びと自信を育みたい。
→ Tina のスピーチを題材に、友人への感謝の気持ちや新しい環境に挑戦する姿勢を理解し、自分自身の経験や感情と重ねながら学びを深める。英語を単なる知識や技能として学ぶのではなく、思いや感謝、決意などの心を伝える手段として活用する。

■ 参会者の声

- 単元末に向けて一時間一時間を組み立てることの大切さを改めて感じ、今後の実践に生かしていきたいです。
(指導案検討会 : 小学校教諭)
- 学びたいと思っていたことや、指導に当たって自分自身の課題となっていたことについて協議や講義の中で、研修することができ、とても有意義な時間となりました。学んだことを自らの指導力につなげられるよう、早速実践しようと思います。2回に渡り、有意義な研修をどうもありがとうございました。
(授業研究会 : 中学校教諭)

授業デザイン改善のPOINT

1 時間の授業が単元目標につながる、学習内容のまとめを見通した「授業計画」の工夫

■ 「言語活動を通しての指導」の積み重ね

教科書本文を読み取る際に、内容について自分の考えを問う質問を加えることで、単元末の言語活動（卒業に向けて、思いが伝わるスピーチ）へとつながるようにした。

■ 振り返りの視点の共有

生徒が自分の学びを振り返り、次時の学びにつなげるられるよう、単元（本時）の目標と振り返りの視点を一体化させた。

授業研究会

● 生徒の変容

- 導入場面でのSmall Talkの取組や、展開場面の中で様々な音読活動を多く取り入れたことで、新出語句や言語材料の理解がさらに深まった。
- 単元の目標（伝え方を工夫して、思いが伝わるスピーチをができる）の達成に向けて生徒が学習の見通しがもてるよう、単元のゴールを伝えたり、各授業の学習を単元末の言語活動とつながりをもたせて指導したりすることで、生徒が目的意識をもって学習に臨むことができた。

What Tina say her from three year ago?
Can What will have from tell to that worried girl from three years ago?
Can What friends planned a surprise birthday party for her family!
もし3年前に戻ることができたら

■ 授業者の声

- 「本取組を通して学んだこと」について
- 目標を捉え、単元のゴールから考える「単元計画」の立て方
- 言語活動と指導・練習場面の往還を通して、生徒の変容・成長の実感
- 生徒同士の学びなどをつなげる、教師のファシリテーターとしての役割
- 感想
- 参観いただいた先生方から意見をいただき、とても貴重な時間となりました。また、指導者の先生より、英語の授業における考えるべき、大切にすべき理論などを教えていただき、大変勉強になりました。

If I could go back three years ago,
I want to go back to the school trips, like the field trips, School Ski Trip, and school trip, that I've experienced so far.
Also, I want to try even harder with my studies than I am now.